## ２　学区の概要

（１）学区について

当学区は、金ケ崎町北東部に位置し、北は北上市相去町、東は北上川を隔て奥州市江刺区に接している。西は国道４号線をはさんで第一小学校区、南は金ケ崎小学校区に隣接している。北上川が東に湾曲する流域は肥沃で、水田を主とした農作地となっている（中村地区）。また、河岸段丘の東寄りに町道が東西に通り（清水端地区）、学区の北はＪＲ東北線をはさんで相去町に接する（瘤木地区）。以上の３地区が学区となっている。

昭和５７年１０月、江崎大橋が開通、続いて６２年１０月の門脇跨線橋の完成によって、奥州市江刺との交通の便がよくなった。

当三ケ尻地区は、もともと「清水端」「中村」「瘤木」の３行政区からなっていたが、昭和４５年に三菱製紙工場の社宅を中心とする地区が瘤木地区に、４８年には、六本松団地が清水端行政区に編入された。学区は比較的狭く、児童の通学距離は、最遠でも３ｋｍ内外であるが、最近通勤等による交通量が著しく増加し、地域をあげて交通安全指導に配慮している。

以前、生業は農業中心であったが、現在、町内の工場や奥州市水沢や北上市の会社に勤める人が多くなってきている。特に近年主婦の就労も増し、共稼ぎ家庭が増加している。概して経済的には安定している。

学区民は、学校教育はもとより、生涯教育に対しても関心が高く、よくまとまり協力的でＰＴＡ活動や教育振興運動が活発に行われている。平成１２年３月には、三ケ尻地区教育振興会が中心となり『子どもを見守る家』を学区内１８戸に設置し、「地域の力で子どもを見守り育てよう」をモットーとした運動を始めた。また、平成１８年には「スクールガードボランティア」が設置され、地域の老人クラブが主になって、児童の登下校の見守り活動を進めている。

平成１８年３月には学区民の強い要望が実り、校舎改築が行われた。中央校舎部分が新築になり、太陽光発電システムや全館暖房システムを備えた木造校舎が完成した。木の香りのする温かみのある学校で、児童はのびのびと活動している。

校庭西側には、樹木が生い茂り、その中に先人を顕彰する碑などが設置されていたが、平成２５年の夏に、その敷地内に三ケ尻学童保育所を新築するために樹木は伐採された。更には、校庭の南と西側に聳え立っていた桜の木々は、老木となり、児童の安全のために平成２８年６月に伐採。また、同年９月に駐車場が舗装に整備された。

（２）地区別世帯数

| | 清水端地区 | 中村地区 | 瘤木地区 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 世帯数 | ２７８戸 | ８６戸 | ４１６戸 | ７８０戸 |
| 人　口 | ７３４人 | ２４８人 | ８２９人 | １８１１人 |
| 児童数 | ５７人 | １６人 | ２９人 | １０２人 |
| Ｐ会員数 | ４２人 | １０人 | ２２人 | ７４人 |

※Ｒ７．４．１現在（世帯数･人口はＲ７．１月末現在）